

鹿児島県牛削蹄競技大会で

東 幸二さん（東千草集落）

優勝

県内の各地区の牛削蹄師が技術を競い合う『第19回鹿児島県牛削蹄競技大会』が7月6日、薩摩郡宮之城町の薩摩中央家畜市場で開かれました。

大会では、県内各地区の代表26人が出場し、牛の蹄削りの技術を競って行われ、本町の東幸二さん（東千草集落）が、見事優勝しました。

競技は、牛の歩き方や立つ姿勢、蹄形から蹄をどう切るかを決める削蹄判断と、実際に削蹄する2種目で行われます。



▲左から、豊住秀史さん・東幸二さん・山下伸朗さん

牛の削蹄は、運動不足などによって伸びすぎた蹄を削り、理想的な形態に維持するための技術です。蹄のバランスが悪くなるとストレスを招き、乳量や肉質が落ちたり、体調を崩す原因になったりするため、牛舎で飼育する形態が一般的な日本の畜産業には欠かせない飼育管理技術のひとつとされています。

8月31日に福岡県で開催された九州大会には、県大会で上位に入賞した角堂集落の山下伸朗さんも出場しました。審査の結果、30人中5位に入賞した東さんが、10月に栃木県で開かれる全国大会へ出場することが決まりました。

また、東さんは、全国でもまだ数少ない『指導級認定牛削蹄師』の資格を今年取得されました。これは、高い技術と知識を兼ね備え、さらに業界の指導的立場に立てる人だけが取得できる資格で、今後は、講習会での



▲削蹄競技中の東さん

講師や大会等の審査員としての活躍も期待されます。

東さんは「県大会で優勝できてたいへんうれしく思います。削蹄師になって20年が経ち、指導級の資格を取るのが夢でしたが、それもかきました。今後は、後輩たちが大会で優秀な成績を残せるように、自分の技術を少しでも伝えていきたい。」と話されました。

ちっこたぞ!

大野翔太くん

（中沖小学校4年）

県図画作品展で県知事賞

8月19日、大野翔太くん、両親が大崎町役場を訪問し、町長・教育長に受賞の報告をしました。

大野くんは「くさりをつつひとつ描くのがむずかしかった。初めて県知事賞をもらえて、とてもうれしかったです。」とはにかみながら話していました。

町長より「このような立派な知事賞を翔太くんが受賞し、たいへんうれしく思います。これからもがんばってください。」とお祝いの言葉がありました。入賞作品は、8月8日まで鹿児島市の黎明館で展示されました。



県内の美術教育の向上に役立てようと、毎年開かれている、県図画作品展が、7月25日に鹿児島市でありました。

今年度は、幼稚園、小・中学校からおよそ4万点の応募があり、MBCで行なわれた審査会では、地方審査会で選ばれたおよそ5,300点の中から、600点の入賞作品が選ばれました。特に優れた作品に贈られる県知事賞に、中沖小学校4年の大野翔太くん（ほか2名）の作品が選ばれました。



▲画用紙いっぱいに、力強く描かれたトラクターの絵